

一般質問

6月定例会の一般質問は、6月17日から20日までの4日間行われ、14名の議員が市政について質問しました。一般質問は、議案と関係なく市政全般にわたり執行機関に対して執行状況や将来に対する方針などについて所信を尋ねたり、報告、説明を求めるものです。

那須和也 議員



質問 直方市の水道水に含まれる有機フッ素化合物（PFOS、PFOA）の対策について

PFASは、有機フッ素化合物のうち特定の化学構造をもつものの総称で、中にははっ水、はっ油性でフライパンや食品包装など身近なところで幅広く使用されている。2020年に環境省が行った調査では、目標値を超えるPFASが検出されており、人体へのばく露防止対策を問う。

答弁 PFASのうちPFOS、PFOAは、水道法上水質基準での規制はなく検査義務はないが、厚生労働省により令和2年4月に水質管理上留意すべき項目である水質管理目標設定項

目に設定された。本市では、令和3年度から毎年1回、配水系統毎に末端近くの給水栓にて検査を行っている。日本の基準値は合計量が50ng/L以下であるが、これまで本市では全て測定下限値である5ng/L未満となっており。もし、基準値以上が検出された場合でも、本市浄水場では粉末活性炭を用いて除去することが可能である。



渡辺和幸 議員

質問 こども未来戦略「加速化プラン3・6兆円」の施策について

こども未来戦略「加速化プラン3・6兆円」の施策概要について、その中の「こども誰でも通園制度」の概要と問題点及び本市としての対応を問う。また保育所の職員配置基準が7年ぶりに改訂されたが、その影響と加速化プランを実施するに当たっての財源についてどう手立てするのかを問う。

答弁 こども誰でも通園制度は施設の負担が大きく、実施に当たっては十分に検討する必要がある。また、保育士配置基準改善は、すでに他の加算で対応されておりほぼ影響はないと認識している。加速化プランは医療保険加入者からの支援

金徴収等が財源となっており、その確保について注視していく。

質問 小・中学校体育館（避難所）への空調整備について

小・中学校の体育館は教育施設であるとともに、災害時の避難場所として活用されている。体育館への空調設備の設置等について、昨年7月31日付で事務連絡が発せられているが、その内容と今後の整備計画について、教育委員会の認識と今後の整備計画について問う。

答弁 児童・生徒の健康管理等のための対策は必要であり、空調設備はその一つと考える。他市等の設置率は高くないものの国からも内閣府他各省庁連名での通知があり、設置の促進や防災と学校施設両面からの補助金等の案内がなされている。設置のための一定の準備は必要であると認識している。

矢野富士雄 議員



質問 ヤングケアラーへの市の対応の現状と今後の取組について

こども家庭庁が発足して1年以上が経つ。国もヤングケアラーへの対応に一段と力を入れ、支援体制を強化している。ヤングケアラーの問題は、子供として守られるべき権利が侵害され、学業や交友関係に支障が出たり、将来への方向性へも影響したり等、多くの支障があるからだ。そこで市の対応の現状と今後の取組、本気度について問う。

答弁 ヤングケアラーは「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度におこなっている」と認められる子ども・若者」と令和6年6月に法律で位置付けられた。早期発見するための広報実施や家事支援事業で本人の負担

軽減を図る等、複雑な課題を抱える家庭を多機関で連携しながら支援に繋げていく。

質問 市の補助金について

市の補助金の中でスポーツ、文化芸術、ボランティア、地域活動等の団体に出ている補助金について、その目的、申請認可、交付基準、金額の決定方法等、一般市民に分かりづらい部分について問う。

答弁 補助金は「市民や地域全体の利益の向上」を図ることを目的として、その年度の予算額を上限に交付される。事業費の増加が見込まれる等の理由により、補助金の増額を希望する場合は、予算編成の段階で事業計画書等を担当部署に提出するなど、事前に協議を行う必要がある。



澄田和昭 議員



質問 「買い物困難者」の移動手段コミュニティバスの路線拡大と充実について

山部にあった「スーパーASO」が5月31日に閉鎖となり、西校区と南校区の一部には買い物をする場所がなくなり、跡地に買い物ができる店を誘致してほしいとの要望が多く聞かれる。難しいなら市民の足としてのコミュニティバスの路線を拡大してほしいとの要望も多く聞かれた。本市の見解を問う。

答弁 限られた財源や運転手不足の中、現路線を維持・確保することも困難な状況であり路線拡大の検討に至っていない。コンパクト＋ネットワークの考え方に基づき、地域・利用特性に応じた日常生活を支える移動手段の確保・維持のため、

継続して市全体の路線の再編・見直しに取り組む。

質問 小・中学校の修学旅行費用について学校規模による格差の是正について

小・中学校の修学旅行費について、学校規模の大小によって金額に差が出ており、小規模小・中学校のほが負担の割合が大きい。本市として統一して、どの学校に入学しても同じにするべきではないかとの要望も出ているが、本市の見解を問う。

答弁 修学旅行の行き先、活動内容等、学校が決めるため、行き先が同じであっても、活動内容や宿泊施設の違いによって金額に差が出る。今後に向け、業者への企業努力の依頼を含め、援助費増か保護者の負担増か、費用を抑えるか等、修学旅行の在り方を多方面から検討していく。



野下昭宣 議員



質問 市長の政治姿勢と議員の逮捕について

大塚市長就任以来、市長の政治姿勢と都市像に関連して質してきた。「市長の指導性と議員のやる気」に直方の全てがかかっているという認識からである。今回の議員の逮捕は「議員のコンプライアンス」の欠如を理由にしているが、私は市長の日頃の職員に対する指導、管理監督に問題があると認識している。市長の見解を問う。

答弁 今回の職員逮捕は、市職員の信用を著しく傷つけた行為である。職員一人一人の倫理観の欠如というだけで終わらせることなく、今後組織としてどう対応していくべきかが問われる。再発防止に向けた取組をしっかりと実践していく。

質問 都市像とDX推進本部会議について

DX推進本部は、A1時代を先取りした事業と評価するが、それは戦術であり、戦略目標が見えない。事業の効率化を目指していることは理解するが、これまでの経過と、その果実を一元化し、「世界の全ての情報が活用できるシステム」を構築してほしいと考えるが、市の見解を問う。

答弁 市のDX推進はまだ道半ばというところ。ノーコードツール等も活用しながら、デジタル化で生じた余力で様々な課題に対応していけるように、職員のスキルアップに努めていきたい。また、情報を集約しワンストップでアクセスできる仕組みについて、実現に向けて研究していきたい。



岡松誠二 議員



質問 高齢者の運転免許返納と返納後の支援策について

5年前東京渋谷で起きた暴走事故以来、高齢者による危険運転が度々メディアで伝えられるが、本市の場合、免許返納したくても、その後の生活ができなくなるといった意見も耳にする。今現在どのような支援策があるのか、また足りない部分があれば今後どうするかを問う。

答弁 市民の安全確保のため、心身機能等が低下し、運転技術等に自信が持てなくなった方等に対して運転免許の返納を推進する取組は重要であり、今後とも推奨していく。また、通院等のための移動手段の確保は、

高齢者に限らず、重要な地域課題と認識している。

今後も高齢化が進む中、高齢者の社会参加の機会を確保するため、住み慣れた地域で、通いの場が増えていくよう取り組んでいく。



宮園祐美子 議員



質問 包括的性教育について

本市の男女共同参画フォーラムにて「包括的性教育」を取り上げられたということとは、本市としてできうる限り「包括的性教育」を進めていく方針なのか。

・幼児やその保護者に対して性教育をされているのか。
・性犯罪・性暴力対策の強化の方針が令和2年6月に決定され、令和2～4年度の3年間で「性犯罪暴力対策の集中強化期間」だったが、本市での取組、課題、反応について問う。

・令和5～7年度の3年間は、性犯罪・性暴力対策の「更なる集中強化期間」と打ち出されているが、現在の実施状況を問う。

答弁 性に関する教育については、男女共同参画推進のためにも、関係課と連携しつつ継続して取り組む。保育園、認定こども園、幼稚園でも性教育に関する取組は一定行われている。小・

中学校では、性犯罪暴力対策の集中強化期間に「プライベートゾーン」や「境界線」、「デートDV」等の取組を行い、児童・生徒からは、好意的な反応があった。課題は、発達段階に応じた指導の工夫、日常的な指導等が必要なことがある。更なる集中強化期間では、現在の取組を進化充実させていくこと、性暴力対策アドバイザー派遣事業を活用し指導内容を進化充実させていくことを中心に行っていく。



草野知一郎 議員



質問 小・中学校特別支援教育の現状と問題点について

近年、特別支援学級数は増加の一途をたどっているが、今年度の支援員数は足りているのか。また現在、通級指導教室は小・中学校ともに1校ずつ設置されているが、他校の児童・生徒に対する支援は十分なのか。いずれも不足しているならば、今後の見通しはどのようなものかについて問う。

答弁 通級による指導を必要とする児童・生徒は、増加傾向にある。今後も一定数の児童・生徒が指導を必要とする状況となることが推測される。今後も通級の必要性を県に要望し、加配

もしくは定数の新たな配置に向け、要望を続けていくとともに支援員の増員も関係課と協議を重ねていく必要がある。

質問 歴史資料館（仮称）建設の展望について

我が市には、東蓮寺藩誕生から四百年、石炭と鉄道の中核都市として栄えてから百年余という、誇るべき歴史がある。これらの歴史によって育まれた生活や文化や誇りを、次世代に正確に継承していくために、歴史資料館（的なもの）の建設や設置の計画はあるのかについて問う。

答弁 昨年度、東蓮寺藩誕生四百年を迎えるなど、本市には誇るべき歴史や文化が存在しており、これを後世に継承していく意義の重要性も認識している。施政方針等に掲げている諸施策との中で優先順位等について検討・協議しながら進めてまいりたい。

高宮 誠 議員



質問 コミュニティ・スクールについて

文科省が定めるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の意義や定義を確認しつつ、それを受けて実施されている本市でのコミュニティ・スクールの現状と在り方、各学校の取組等を確認し、今後どのような効果や影響があるのかを問う。

答弁 現在6校でコミュニティ・スクールを行っている。その内容は「基本的な方針の承認」「学校や教育委員会への意見の申出」の協議や「地域学校協働活動」に関する協議も行われている。今後も学校運営に地域の声を積極的に生かし、学校の実情に沿った特色ある学校づくりを進めていきたい。

質問 児童・生徒の安全確保について

通学路に関して、登下校中の子供達の側を勢いよく走る車が多く見られ、スクーリングゾーンをもっとアピールする必要があると思われるが、本市の考えを問う。また、水難防止に関しても、子供達が生活する環境に関わる人全員で総合的に取り組む必要があると思われるが、本市の考えを問う。

答弁 通学路のアピールとして地図の配布や路面標示、グリーンベルト等の設置を実施している。引き続き、積極的に対策を講じる予定である。また水難事故防止のため、市が管理するため池や河川等の危険箇所を点検と併せて、国・県・学校等の関係機関に危険箇所の点検と必要な対応も依頼している。

紫村博之 議員



質問 直方市奨学金返還支援事業について

奨学金返還支援制度は、自治体や企業が奨学金の返還を肩代わりする制度である。令和4年6月時点で、615市町村が支援に取り組んでいる。地域内に居住することや就業することなどを要件にして奨学金返還を支援している。そこで、本市の奨学金返還支援事業の課題について問う。

答弁 初年度となる令和5年度は、定員20名に対して申請者13名と、申請者数が定員を下回ることとなった。制度の周知が不十分であったことがその要因として大きかったと考えている。現在、本市には二つの奨学金



返還支援制度があるが、活用される方に分かりやすく伝わるよう、制度の整理と併せて、改善に向けて検討していきたい。また、企業が行う奨学金代理返還支援制度についても、企業への啓発・案内を進める等、商工部門とも連携して、支援制度の充実に取り組んでいきたい。



森本裕次 議員



質問 相続登記の義務化と空き家対策について

相続登記の義務化が本年4月1日から施行され、今まで任意だった不動産の相続登記が相続を知った日から3年以内に、相続登記することが法律上義務化された。所有者が死亡したのに登記がなされず、「所有者不明の土地」が全国で増加し、環境悪化や公共事業の阻害等社会問題となっているからである。この相続登記、未登記の現状や円滑な促進方法、空き家対策への活用を問う。

答弁 相続登記されていない数は、全納税義務者の14%の3,875名に、市外所有者の把握できない分

をプラスした数になる。市では制度の周知を図るため、固定資産税納付書にチラシを同封、市報、直方市ホームページでの広報、及びお悔やみ窓口での説明をしている。登記費用の補助等の支援策を含め、どの様な支援を行えば空き家の減少に繋がるかを継続して検討していく必要がある。また空家法改正の趣旨を踏まえ、これまでの情報提供に加え、庁内での連携体制の構築、及び民間事業者等との連携についても検討する必要がある。

安永浩之 議員

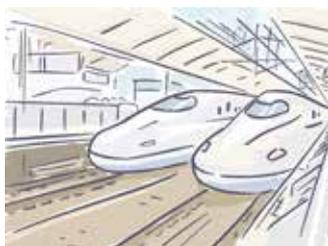


質問 新幹線新駅の設置について

新産業団地の造成が進み、活況を見せる植木地区に、新幹線新駅の設置に向けた検討が始まっている。近年の取組内容や期待する新駅の機能と役割、今後のスケジュールなどを確認し、新駅設置への市長の想いを問う。

答弁 新産業団地の造成計画の策定と平行して、令和4年度以降、二度の勉強会を開催し、参加した官民の代表からも、前向きなご意見をいただいた。新幹線新駅には、福岡市、北九州市中心部へのアクセス向上機能や、アクセスの良い産業集積地を形作っていくため

の一つの仕掛けとしての役割、鉄道輸送における物流の拠点としての機能等を期待するところである。データセンター誘致も含めて、両政令市の中間点という立地環境については、県知事も認識を新たにしていただいているところであり、千載一遇のチャンスと捉えている。これから、県としっかり連携を取りながら進めていきたい。



篠原正之 議員



質問 ワンヘルスの推進（特に①人獣共通感染症④人と動物の共生社会について）及び野良猫対策について

①直方市におけるワンヘルスの取組について
②野良猫のフン害がトキソプラズマ症の感染源に挙げられていることについて、本市はどのように考えているか。
③「直方市動物愛護の会」が設立され、精力的に活動を行っているが、本市が連携して支援できることはないか。

答弁 福智山ろく花公園が、福岡県ワンヘルス啓発施設として認定され、ワンヘルスマスターに認定されている同園長を講師としてワンヘルスの基本を学ぶ学習会

を開催予定である。またイベントの際にセラピードッグによるふれあい体験等を実施。一部の小・中学校でワンヘルスの理念を学ぶ機会を設けるなどの取組も実施していく。

ワン害をはじめとする野良猫問題対策として、餌やりを行い苦情が寄せられている方に対し、これ以上野良猫を増やさぬよう周知・依頼しているが、理解してもらえず大変苦慮している。そのような中、直方市動物愛護の会が設立され、その活動については、行政として取り組みにくい分野に積極的に携わっていただき、非常に心強く思っていると同時に、それぞれの立場でできることを互いに協議しながら、支援策を検討し、ワンヘルスの推進に向けて尽力していきたいと考えている。

松田 昇 議員



質問 直方・鞍手新産業団地とその周辺の開発について

直方・鞍手新産業団地の現在の進捗状況はどうなっているか。あわせて順調に進んでいると思われるか。また今後のスケジュール等に変更等はないか。新産業団地については、県と直方市と鞍手町で進めていると思われるが、データセンターについて何も変更はないか。鞍手町が独自で民間のデータセンターを誘致しているとの話もあるが、それについての情報や、本市も周辺整備に関して何かいい情報はないか。また関連した近隣地区に関して何か動いているのだという明るい情報はないか問う。

答弁 最初の工事となる伐

採開始に向けた準備のほか、地元への説明、開発区域内外の調整などを進めている。スケジュールに変更はなく、福岡県、鞍手町と連携し令和7年度の造成完了を目指して事業を進めている。鞍手町独自のデータセンター誘致について、同町によれば現時点、正確な情報は把握していないとのことである。周辺整備に関しては、当市の工業用地不足解消に向け、本議会において補正予算を提案し、植木地区も含めた市内全域の工場適地調査事業を行うこととしている。

全国市議会議長会表彰

議会議員として、長年にわたり地方自治の振興に尽力された功績により、松田議員が全国市議会議長会から表彰されました。

◆議員表彰

松田 昇 議員
(議員勤続25年以上)



会派紹介

会派とは所属する政党や、主義・主張など考えを同じくする議員で構成し、活動するグループのことで、直方市議会には8つの会派があります。令和6年2月1日号～11月1日号にかけて、毎号2会派ずつ紹介していきます。今回は、「ふたば」と「正誠会」をご紹介します。

ふたば



草野議員 中西議員

「梅檀は二葉より芳し」
梅檀の樹の高い芳香は、発芽後の二葉の頃から始まっている、という意味の諺です。私たちはフレッシュな新人を含む会派です。会派名には、地中の種子から最初に出た二枚の葉のように、若くても強烈な存在感を発揮し、かつ二人が力強く協力する、そんな「ふたば」でありたいとの願いを込めています。皆様の市政へのご意見をたくさんお聞かせください。全精力を傾注して、私たちにできることに取り組んでまいりたいと思っています。

正誠会



篠原議員 岡松議員

以前、警察関係者から聞いた話ですが、事件や犯罪が他と比べて少ない直方署は「筑豊のオアシス」と言われていたそうです。
安心して生活できる地域を、日本を守っていききたい。そのために、国会議員、県議会議員、各種団体と連携して「正しき事を誠意をもって成し遂げる」をモットーに日々活動しています。

水仙

6月5日厚生労働省発表
「日本の2023年合計特殊出生率は1・20」
日本も福岡県もちろん直方市も、人口が今後増加することはまず考えられません。高度経済成長は今や御伽話で、財政再建団体となった自治体の例を耳にすると、心が凍り付きます。

暗い話題ばかりあげつらいましたが、そんな時代に突入したからこそ、我々議員が率先して、直方市の将来に展望を持ち、市民の希望をリードする覚悟を新たにせねばなりません。

9月議会の主な話題は、令和5年度決算です。未来に向けて大きな指針を示す、そんな議会活動にしたいと議員の一人として強く思います。

※本稿執筆は令和6年6月28日



令和6年9月定例会予定

9月6日(金)	提案説明
7日(土)	休会(休日)
8日(日)	休会(休日)
9日(月)	一般質問
10日(火)	一般質問
11日(水)	一般質問
12日(木)	一般質問
13日(金)	休会(議案考査)
14日(土)	休会(休日)
15日(日)	休会(休日)
16日(月)	休会(休日)
17日(火)	決算質疑
18日(水)	休会(議案考査)
19日(木)	予算等質疑
20日(金)	委員会
21日(土)	休会(休日)
22日(日)	休会(休日)
23日(月)	休会(休日)
24日(火)	委員会
25日(水)	委員会
26日(木)	委員会
27日(金)	採決

・本会議、各常任委員会の開議は、午前10時からです。
・日程、開議時間の変更される場合がありますので、詳しくは議会事務局までお問い合わせください。